

第49回

ひらつか

# 民俗芸能まつり

人形浄瑠璃芝居の部

寿式二人三番叟 県立高浜高等学校文楽部

傾城阿波の鳴門く巡礼歌の段 湘南座

鎌倉三代記く三浦別れの段 相模人形芝居前鳥座

甚句の部

眞土甚句 眞土神社甚句保存会

囃子太鼓の部

屋台ばやしと里神楽 (前鳥囃子)

前鳥神社囃子太鼓保存会 (市指定重要無形文化財)



前鳥神社囃子太鼓保存会は今年結成50年



**入場無料**  
事前申し込み不要

平塚駅から徒歩約15分  
駐車場はございません  
公共交通機関をご利用ください



詳細はこちら

令和7年

**11月16日 (日)**

開場/12:30 開演/13:00

**平塚市中央公民館大ホール**  
(平塚市追分1-20)

主催/ひらつか民俗芸能まつり実行委員会・平塚市教育委員会 問い合わせ/平塚市教育委員会社会教育課 TEL 0463-35-8124



# 第49回ひらつか民俗芸能まつり

## 出演団体と演目



かながわけんりつつかはまこうとうがっこうぶんらくぶ  
神奈川県立高浜高等学校文楽部  
ことぶきしきににんさんばそう  
寿式二人三番叟

昭和47年(1972年)に大阪乙女文楽の継承者である故・桐竹智恵子氏による指導が始まりました。高校のクラブ活動では数少ない一人遣いで、現在2年生2名の部員が中心となって、地域との交流活動などを通じて、伝統芸能の披露や継承に励んでいます。

演目「寿式二人三番叟」は、公演の開幕前に舞台を踏み清める祝言舞踊です。



しょうなんざ  
湘南座  
けいせいあわのなると ~じゅんれいうたのだん~  
傾城阿波の鳴門~巡礼歌の段~

高浜高校の卒業生を中心に平成2年(1990年)に結成しました。

平塚八幡宮や福祉施設での公演など一人遣いの人形浄瑠璃の継承に努め、高浜高校文楽部での指導も行っております。

演目「傾城阿波の鳴門」は、阿波藩のお家騒動を題材にした物語です。長い年月にわたり、生き別れていた母子の再会の場面が見どころです。



さがみにんぎょうしばいさきとりざ  
相模人形芝居前鳥座  
かまくらさんだいき みうらわかれのだん  
鎌倉三代記~三浦別れの段~

四之宮・前鳥神社の奉納行事として、江戸時代の中ごろからはじまったと考えられる三人遣いの人形浄瑠璃の一座です。また、相模人形芝居五座の一つでもあります。

演目「鎌倉三代記~三浦別れの段~」は、大坂夏の陣の豊臣家滅亡を鎌倉時代に置き換えた作品です。登場人物の悲劇的な別れには胸を打たれます。



しんどじんじゃじんくほぞんかい  
眞土神社甚句保存会  
しんどじんく  
眞土甚句

平成3年の眞土神社神輿修復を記念し、翌年甚句愛好会(現・眞土神社甚句保存会)が結成されました。以前から時折唄われていた甚句を、眞土の郷土史や神輿の姿を唄いこんだ歌詞に改め、「眞土名代」「眞土神輿」と銘打ち発表し、以後奉納出演や慰問出演など活動を続けています。

毎年4月の第2土曜日に眞土神社の例大祭が行われ、神輿を担ぐときの活気づけに唄われます。曲目には、眞土名代、眞土神輿、四季、花暦、田植えなどがあります。



さきとりじんじゃはやしたいこほぞんかい  
前鳥神社囃子太鼓保存会  
やたい さとかがら  
屋台ばやしと里神楽

前鳥神社の祭り囃子として江戸時代中期ごろから氏子たちに受け継がれてきました。曲目は、屋台・宮昇殿・昇殿・神田丸・唐楽・鎌倉・仕丁舞・印場・キザミで構成され、特に里神楽になんばと呼ばれる農耕動作が残るのが注目です。

平塚市の無形文化財として、古き良きものを大切に、形を変えず次の世代へ継承していきたいとの思いで小学生から70代までが同じ舞台に立つために、世代を超えて全員で精進しています。

※演目は予定であり、変更する場合があります。